

台風30号（フィリピン）の被害概要について

台風30号(HAIYAN)によるフィリピン中部における被害概要①

■台風の概要

- 2013年11月4日午前9時、トラック諸島近海で発生。¹⁾
- 8日午前、フィリピン中部に上陸、**暴風・高潮災害**が発生。²⁾
- 9日午前、レイテ島、セブ島、パナイ島を横断、南シナ海へ抜けた。²⁾
- 11日、ベトナム北部に上陸、中国でも被害。
- 中心気圧; 895ヘクトパスカル(11月8日時点)¹⁾
- 最大瞬間風速; 90m/s¹⁾

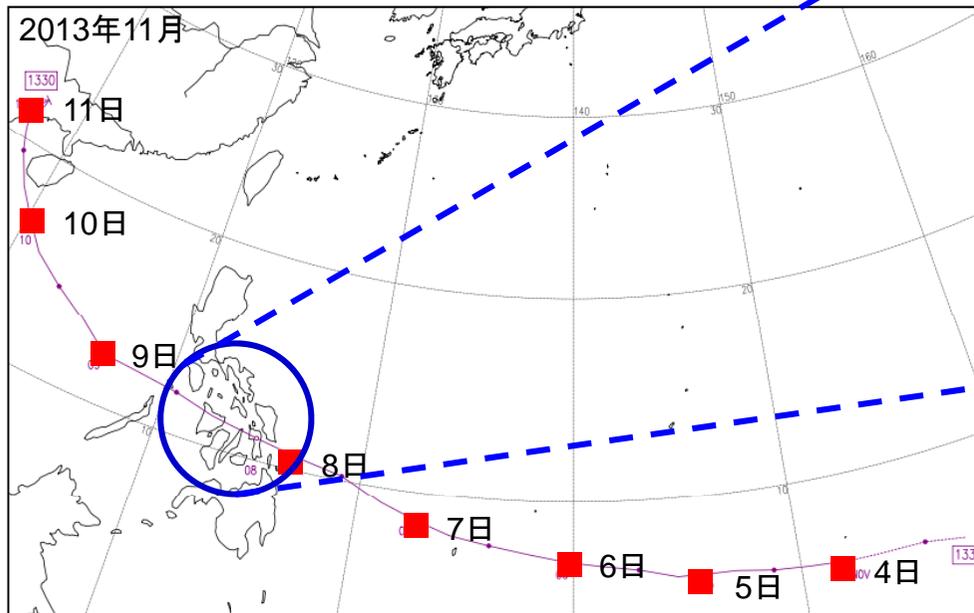
※米軍合同台風警報センターの観測では最大瞬間風速は105m/s³⁾

■被害の概要²⁾

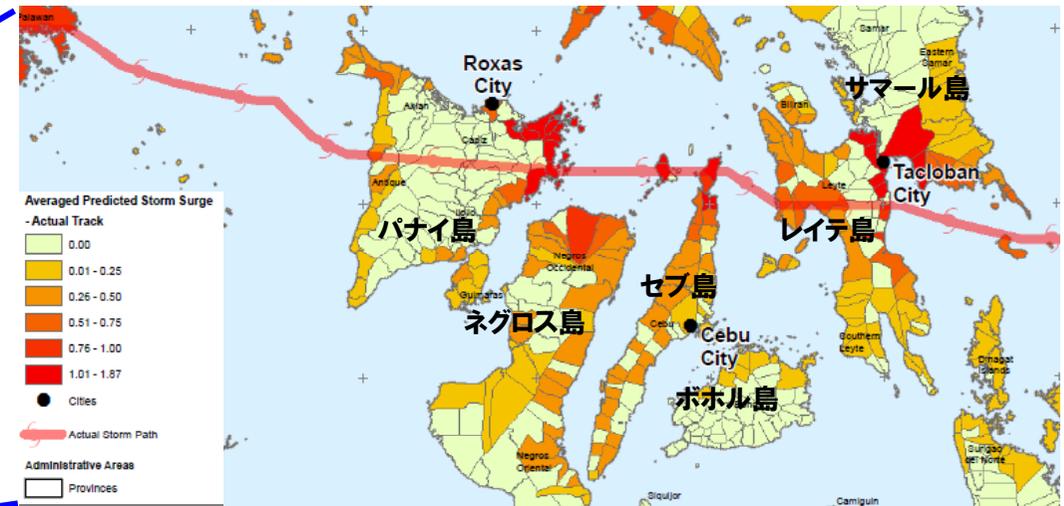
- 死者; 6,201人
- 行方不明者; 1,785人
- 避難者; 約410万人
- 被災者; 約1,608万人
- 家屋損壊; 約114万棟
- 経済被害額; 約398億ペソ(約964億円)

※1 フィリピン国家災害対策局2014年1月29日午前6時発表

※2 1ペソ=約2.42円(2014年1月30日現在)



2013年台風第30号経路図⁴⁾



台風の進路と予想高潮高さの関係⁵⁾

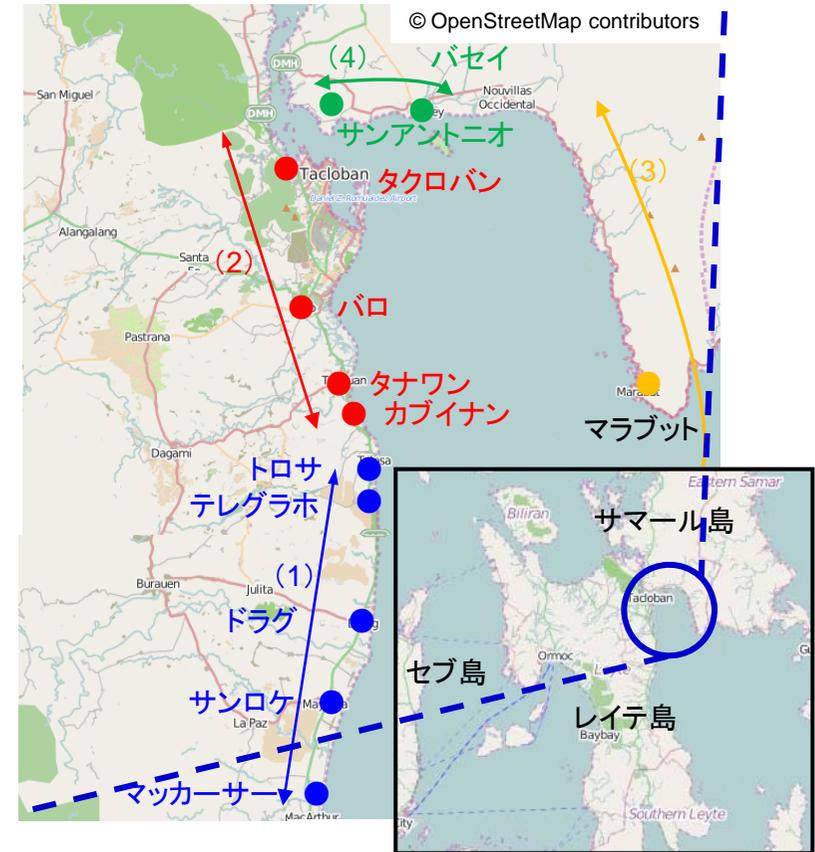
- 出典: 1) 気象庁台風位置表2013年台風第30号
 2) 2014.1.14 NDRRMC "Sitrep No.92 re Effects of TY "YOLANDA"
 3) Joint Typhoon Warning Center (JTWC) Tropical Advisory Archive
 4) 気象庁台風経路図2013年台風第30号
 5) Typhoon Haiyan (Yolanda) Predicted Storm Surge based on Actual storm OCHA他

■サンペドロ湾周辺の被害状況

- ・国際緊急援助隊専門家チームによると、甚大な被害を受けたサンペドロ湾周辺は、暴風と高潮による被害が大部分で、**高潮は沿岸部で5m~6mに達し、津波のように段波状になって沿岸部を襲ったものと考えられるとの現地調査結果。**
- ・地元語やタガログ語に高潮を示す言葉が無く、テレビ等で使用された「**ストームサージ**」の意味が的確に伝わらずに避難しなかった事例が多く発生¹⁾

出典: 1) 2013.11.25 毎日新聞 “フィリピン:「津波」なら逃げた 言葉の壁、被害を拡大”
<http://mainichi.jp/select/news/20131125k000e030155000c.html>

	区間	浸水深(m)	被害概要
(1)	レイテ島サンペドロ湾の外側	1~1.5	限定的 (集落は平坦な平地に位置する)
(2)	レイテ島サンペドロ湾の内側	5~6	人口・資産の集積も大きいことから甚大な被害
(3)	サマール島サンペドロ湾の内側	1~2.5	海岸の南にむいている範囲は被害が大きい(小さな集落が、山裾の海岸に散在している。)
(4)	サマール島サンペドロ湾の湾奥	5~8	集落の被害は極端に大きい(小さな集落が、山裾の海岸に散在)



(1) サンペドロ湾外:ドラグ (被害は限定的)



(2) サンペドロ湾の内側:タナワン (深刻な被害)



(3) サンペドロ湾の入り口: マラブット (中規模から深刻な被害)



(4) サンペドロ湾奥: サンアントニオ (極めて甚大な被害)

■フィリピン政府による対応

(1) 復旧・復興計画の策定

日付	項目
11月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・復旧復興計画に関する会議開催。比国政府代表及び25の国 / 国際機関が出席。¹⁾ ・初期の復旧・復興予算を約388億ペソと発表。²⁾
12月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・在外公館・国際機関を集めて復旧・復興計画を発表 ・国家経済開発庁(NEDA)が3,609億ペソのヨランダ復興支援計画(RAY)を発表し、学校・空港再建で国際協力機構(JICA)の提案に沿った計画。³⁾

(2) 復旧作業の実施状況(一部)

日付	項目
11月25日	公共事業・高速道路省(DPWH)がタクロバン市、パロ等で仮設住宅の建設開始 ⁴⁾
12月26日	フィリピン気象庁(PAGASA)は気象観測機器のほとんどを再設置したと発表。不足分は国際協力機構(JICA)や世界気象気候(WMO)へ協力を要請。 ⁵⁾

出典: 1) 2013.11.28 DEPARTMENT OF FOREIGN AFFAIRS “Philippine Government Outlines to Development Partners Yolanda Post Recovery and Rehabilitation Plan”

2) 2013.11.28 Sun Star

3) 2014.1.10 まにら新聞

4) 2013.11.25 DPWH “CONSTRUCTION OF BUNKHOUSES

5) 2013.12.27 philSTAR “Pagasa resumes operations in typhoon-hit areas”

ヨランダ復興支援計画

Reconstruction Assistance on Yolanda
における復興費用の配分(単位: 億ペソ)

分野	緊急	14年まで	17年まで	合計
避難所及び移転	156	575	1,102	1,833
公共インフラ	82	23	179	284
教育・保健	15	208	151	374
農・漁業、畜産	43	34	110	187
工業・サービス	12	27	667	706
地方政府	20	20	-	40
社会保障	19	15	150	184
合計	345	906	2,358	3,609

※ 1ペソ=約2.31円(2014年1月15日現在)

台風30号(HAIYAN)によるフィリピン中部における被害概要④

■各国の支援概要

・1月14日現在、フィリピン政府への各国の支援は総額約5.39億ドル。¹⁾

■日本政府の支援状況

・日本政府は**国際緊急援助隊医療、専門家チーム、自衛隊の派遣**、ならびに、緊急無償など合計**約53.1億円**の資金協力。²⁾

■国土交通省の支援状況

- ・11月26日より**国土交通省職員5名を含む国際緊急援助隊専門家チーム**が災害状況把握、復興計画基本方針等に対する技術的アドバイスを行うことを目的として現地調査を実施
- ・東日本大震災の教訓を生かし、減災を基本にした**ハードとソフトを組み合わせ**た**復旧・復興支援策を提案**。

	スキーム	資金協力額	
1	緊急無償資金協力	3000万ドル	約30億円
2	緊急援助物資	約60万ドル	6000万円相当
3	我が国NGO(ジャパン・プラットフォーム)からの支援	約150万ドル	1.5億円
4	アジア開発銀行(ADB) 貧困削減日本基金を通じた緊急支援	2000万ドル	約20億円
5	SEAN+3緊急備蓄米支援	50万ドル	約5000万円
6	国際労働機関(ILO)を通じた雇用創出・職業訓練支援	50万ドル	約5000万円



国際緊急援助隊・医療チームの派遣



がれきの撤去作業をする自衛隊車両



専門家チームによる現地復旧・復興ニーズの把握

出典: 1) 2014.1.14 “Foreign Aid Transparency Hub” <http://www.gov.ph/faith/>

2) 2013.11.15 外務省報道発表“フィリピン中部における台風被害に対する緊急無償資金協力” 4